

授業科目名	救急処置論・実習		授業形態	講義・実習		授業科目区分	専門科目 (基礎科目B)		
担当教員名	赤嶺 卓哉・藤井 康成・添嶋 裕嗣・吉田 剛一郎					補助担当者名	藤井 康成・吉田 剛一郎		
単位数	2 単位		履修年次	2年次		受け入れ人数	200名まで		
授業の概要	スポーツ現場では医療関係者が不在のことも多いため、体育・スポーツを専攻する者にとって必須の知識・手技を習得させ、理論を提供する。本授業では、現場での救命・救急処置を概説し、実際に対応可能となることを目的として、講義・実習を進める。それらを通じ、救急蘇生法などが身につく、各種の受験資格取得などを希望する学生に対する一助ともなることをめざす。この授業は、「救急処置論・実習」についての学習を通じて、本学の教育目標における「体育・健康づくりにおける実践的かつ創造的なリーダーとして、意欲的に取り組めるような能力」を身に付ける科目である。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	指導者基礎力、科学的支援力、専門的な知識・教養 (課題解決力、一般教養・倫理)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	認知的領域	スポーツ現場で必須の、救命・救急処置について理解できる。 救急処置法を説明し、対処方法について提案して、課題を整理することができる。						(口頭試験)	60
	情意的領域	救急心肺蘇生法などに対し、意欲的に取り組み学習する。骨折・脱臼・筋肉と関節の損傷などに対し、興味・関心を有し、その予防方法について、主体的に探求することができる。							20
技能的領域	段階的な救急処置法を実践し、遂行し得る能力・知識を身につけ、レポート作成を行うことができる。							20	
成績評価の基準	レポート(数回)が提出されているという条件で、授業期間に行った口頭試験(小テスト)、実習態度、レポートなどの各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。								
テキスト、教材 参考書	購入すべきテキスト...「アトラス救急処置マニュアル」(山本保博監訳、南江堂、第9版、2010、@ 2800円+税) 参考書...「スポーツ指導者のためのスポーツ医学」(小出清一ら編集、南江堂、改訂第2版、2009、@ 3200円+税)								
履修条件・ 関連科目	1年次生の受講は認めない。実習演目によっては、藤井康成教授、吉田剛一郎准教授の補助を受ける。		備考(教員メッセージ含む)	テキストに沿って授業を行うので、準備をし、予習・復習をすること。とくに真剣な受講・実習態度を重視する。					
オフィス・アワー	赤嶺：火曜日 11時40分～12時40分 研究棟4階 408研究室(要予約)、添嶋：随時 研究棟3階 309研究室(予約制)								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	赤嶺 卓哉	総論(救急処置施行者、事故への対処、傷病者の評価)				総論についての資料を読む。(30分)			
2	"	意識障害とその評価、原因(意識のない傷病者)				意識障害についての資料を読む。(30分)			
3	"	意識障害とその症状、処置(意識のない成人、小児、乳児)				意識障害についての資料を読む。(30分)			
4	"	AED(自動体外除細動器)と呼吸器系の障害(窒息、溺水など)				AED・呼吸器系障害についての資料を読む。(30分)			
5	"	呼吸器系の障害(気道閉塞、喘息など)、心肺蘇生法におけるABC				呼吸器系障害等についての資料を読む、救急心肺蘇生法(ABC)の実習準備をする。(1時間)			
6	"	創傷と循環(循環障害)、骨・関節・筋肉の損傷(骨折、脱臼など)				循環障害、骨・関節・筋肉損傷についての資料を読む。(1時間)			
7	赤嶺 卓哉 藤井 康成 添嶋 裕嗣 吉田 剛一郎	救急心肺蘇生法実習(気道確保・人工呼吸・心マッサージ[ABC]の実習)、救急処置体制と運搬・救護(救命救急処置)				救急心肺蘇生法実習についての復習をする。(1時間)			
8	赤嶺 卓哉	骨・関節・筋肉の損傷(捻挫、脊柱損傷など)				骨・関節・筋肉損傷についての資料を読む。(30分)			
9	"	手技と備品(被覆と包帯)				被覆・包帯についての資料を読む。(30分)			
10	"	手技と備品(三角巾、腕吊り包帯など)、救急蘇生体制と運搬・救護(救命救急処置)				手技・備品等についての資料を読む、救命救急処置の実習準備をする。(1時間)			
11	赤嶺 卓哉 藤井 康成 添嶋 裕嗣	救急法実習(救急法・止血法・創傷処置・包帯法・急病処置・運搬・救護の実習)				救急法実習についての復習をする。(1時間)			
12	赤嶺 卓哉	神経系の障害、高温・低温による障害				神経系障害、高・低温障害についての資料を読む。(30分)			
13	"	高温・低温による影響				高温・低温影響についての資料を読む。(30分)			
14	"	異物、中毒、咬傷と刺創				異物、中毒、咬傷・刺創についての資料を読む、救急処置論・実習に関するレポート作成の準備をする。(2時間)			
15	"	異物・中毒・咬傷・刺創、救急処置法講義・実技、その他の症状				その他の症状等についての資料を読む。救急処置論・実習に関するレポートを作成し提出する。(2時間)			